

分野別目標総括シート

分野別目標5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

<めざす姿>

○海をはじめとする自然、歴史、文化、食、スポーツ、商業施設などの多彩な資源が磨きあげられ、回遊性の高さやおもてなしなどにより、アジアの交流拠点として、世界中から人々が集まっています。また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、魅力向上に向けた取り組みや戦略的なプロモーションにより、九州全体の集客力が高まっています。

○都心に近い大濠公園、舞鶴公園一帯が、市民の憩いの場としての機能と、歴史、文化、観光の発信拠点としての機能を兼ね備えており、都市の顔として、その魅力の向上に重要な役割を果たしています。

○MICEの拠点都市や国際スポーツ大会の開催都市として国際的に認知されています。

| 施策 | | 成果指標 | | 重点事業 ※網かけは再掲 | | | |
|--|---------|--|---------|---|------|--------------------------------|---|
| 名称 | 評価 | 指標項目 | 指標の達成状況 | 名称 | 進捗状況 | | |
| 施策5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ | ◎: 順調 | 入込観光客数 (日帰り) | A | 日本で唯一の歴史資源活性化事業 | c | | |
| | | | | 鴻臚館・福岡城の整備① (鴻臚館跡整備基本計画事業) | a | | |
| | | 入込観光客数 (宿泊) | A | 鴻臚館・福岡城の整備② (福岡城跡復元整備事業) | c | | |
| | | | | 吉武高木遺跡環境整備事業 | a | | |
| | | クリエイティブフェスタ (クリエイティブ・エンターテインメント都市づくり推進事業)<再掲7-3> アジアフォーカス・福岡国際映画祭<再掲7-3> | ◎: 順調 | | | 市内産農畜産物6次産業化推進事業<再掲6-4> | a |
| | | | | | | 福岡産花き海外プロモーション事業<再掲6-4> | a |
| | | | | | | 水産業ブランド創出事業<再掲6-4> | a |
| | | | | | | 福岡で「もう1泊」推進事業 | b |
| | | | | | | 動植物園再生事業<再掲4-4> | a |
| | | | | | | 美術館リニューアル事業<再掲1-4> | b |
| 施策5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり | ◎: 順調 | 過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合 | A | セントラルパーク構想推進事業 | a | | |
| | | | | 鴻臚館・福岡城の整備① (鴻臚館跡整備基本計画事業)<再掲5-1> | a | | |
| | | | | 鴻臚館・福岡城の整備② (福岡城跡復元整備事業)<再掲5-1> | c | | |
| 施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり | ○: 概ね順調 | 観光案内ボランティアの案内人数 | B | まち歩き観光振興事業・史跡めぐりの充実強化①(観光案内ボランティアの充実強化) | b | | |
| | | | | まち歩き観光振興事業・史跡めぐりの充実強化②(歴史・文化遺産まち歩き) | c | | |
| | | 観光情報サイトのアクセス数(観光情報サイト「よかなび」の月間PV(ページビュー)) | C | おもてなし推進事業 | a | | |
| | | | | 戦略的情報発信事業 | a | | |
| | | | | 都心のまちづくりの推進(都心のエリアマネジメントの推進)<再掲4-6> | b | | |
| | | | | | | 快適で高質な都心回遊空間の創出事業(終了)(経済観光文化局) | - |
| | | | | | | 快適で高質な都心回遊空間の創出事業(住宅都市局) | a |
| | | | | 快適で高質な都心回遊空間の創出事業(道路下水道局) | a | | |

| 施策 | | 成果指標 | | 重点事業 ※網かけは再掲 | |
|--------------------------------|--------|---|-------------|--|--------|
| 名称 | 評価 | 指標項目 | 指標の 達成状況 | 名称 | 進捗状況 |
| 施策5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成 | ○:概ね順調 | 国際コンベンション開催件数 | A | 国内を代表するコンベンション拠点の形成 | b |
| | | 国内コンベンション誘致件数 | C | 都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化の検討<再掲4-5> 産学官民連携による国際競争力強化事業<再掲6-1> | — a |
| | | | | MICE誘致推進事業 | b |
| | | | | 地方創生交付金活用事業:MICEによるクールジャパンの推進 | a |
| 施策5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興 | ○:概ね順調 | 福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数(福岡ソフトバンクホークスを除く) | B | 国際スポーツ大会等の誘致・開催①(スポーツコミッション事業) | a |
| | | スポーツ観戦の機会への評価(福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思ふ市民の割合) | A | 国際スポーツ大会等の誘致・開催②(ラグビーワールドカップ2019開催準備等及びキャンプ招致) | a |
| | | | | アビスパ福岡支援 | a |
| 施策5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進 | ◎:順調 | 福岡市への外国人来訪者数 | A | 観光プロモーション事業 | a |
| | | 外航クルーズ客船の寄港回数 | A | 戦略的情報発信事業<旧:国内外観光プロモーション事業> | a |
| | | | | 欧州プロモーション事業 | a |
| | | | | クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化①外国クルーズ客船受入事業(A) | a |
| | | | | クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化②外国クルーズ客船受入事業(B) | a |
| | | クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化③(クルーズ客船誘致事業)(調査振興費) | a | | |
| | | 総合体育館整備運営事業<再掲1-5> | a | | |

施策評価シート

| | | | |
|--------|--|-----|-------------|
| 目標5 | 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている | | |
| 施策5-1 | 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ | | |
| 施策の課題 | <p>九州新幹線鹿児島ルート全線開通などにより、九州における集客力はさらに高まっています。また、特に天神・博多の二大商業地域には、九州だけでなくアジアからも、多くの人が観光や買い物などに訪れています。</p> <p>しかし、今後の都市間競争を勝ち抜いていくためには、豊かな自然や歴史的遺産などの観光資源をさらに磨き上げ、九州各都市や民間事業者と一体となったプロモーション活動、回遊性の向上などによる観光しやすい環境づくりなどを、戦略的に推進していくことが必要です。</p> | | |
| 施策の方向性 | <p>福岡市が有する歴史文化資源を市民の財産として保存・整備し、アジアとの交流や祭り、コンサートや観劇、展覧会などのさまざまなイベント、美しい街並み、商業施設、食文化や自然環境などと共に、福岡市の貴重な観光資源として、誰もが親しみやすいストーリー性を付加しながら磨き上げるなど、官民一体となった集客戦略を推進します。</p> <p>また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、それぞれがもつ特色ある観光資源を合わせ、エリアとしての魅力向上を図ります。</p> | | |
| 施策主管局 | 経済観光文化局 | 関連局 | 農林水産局、住宅都市局 |

《施策事業の体系》 ★：新規事業 ◆：区事業 / 太字：重点事業 その他：主要事業

(施策5-1)観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

- 福岡の歴史資源の観光活用
 - 日本で唯一の歴史資源活性化事業(鴻臚館・福岡城、元寇防塁、志賀島等) 【経済観光文化局】
 - 鴻臚館・福岡城の整備[鴻臚館跡整備基本計画事業、福岡城跡復元整備事業、福岡城集客機能検討(終了)] 【経済観光文化局】
 - 黒田官兵衛プロジェクト(終了) 【経済観光文化局】
 - 吉武高木遺跡環境整備事業 【経済観光文化局】
 - 庚寅銘大刀保存活用事業 【経済観光文化局】
 - ◆博多ライトアップウォークの推進<再掲:博多区> 【博多区、経済観光文化局】
 - ◆地域密着型の集客・まちづくり<再掲:博多区> 【博多区、経済観光文化局】
 - ◆中央区歴史・文化を生かしたまちづくり推進事業<再掲:中央区> 【中央区、市民局】
- 祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ
 - **アジアン・パーティ** 【経済観光文化局、総務企画局】
 - [クリエイティブフェスタ<再掲7-3>、アジアフォーカス・福岡国際映画祭<再掲7-3>、アジア太平洋フェスティバル、福岡アジア文化賞<再掲8-6>]
 - **★農水産物のブランド化の推進** 【農林水産局】
 - [市内産農畜産物6次産業化推進事業、福岡産花き海外プロモーション事業、水産物ブランド創出事業]<再掲6-4>
 - 福岡で「もう1泊」推進事業、夜の観光資源魅力強化事業 【経済観光文化局】
 - 山笠魅力発信事業 【経済観光文化局】
 - 動植物園再生事業<再掲4-4> 【住宅都市局】
 - 美術館リニューアル事業<再掲1-4> 【経済観光文化局】
 - 博物館の歴史・文化観光拠点化事業 【経済観光文化局】
 - 特色ある公園づくり事業(友泉亭、金印公園、海の中道海浜公園)<再掲4-4> 【住宅都市局】
 - ◆さわら魅力アップ事業(サザエさん通りを生かしたまちづくり、さわらの秋等)<再掲:早良区> 【早良区、市民局】

1 施策の評価(施策の進捗状況)

◎：順調

- ・入込観光客数(日帰り)は、中間目標値を上回っている。
- 入込観光客数(宿泊)は、中間目標値に向けて順調に推移している。
- ・福岡城・鴻臚館エリアの回遊性向上、志賀島体験バスケットのモデル実施、「福岡よる博」の開催など全国へ向けた情報発信、動物園のリニューアルなど、事業は概ね順調に進んでいる。

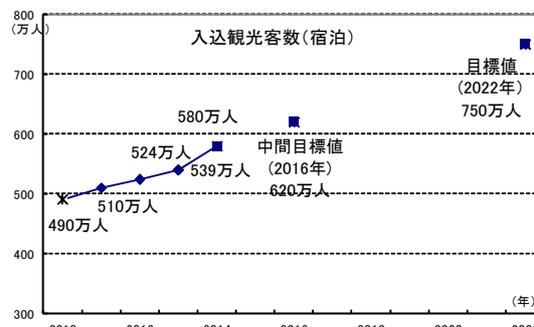
2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

| | 初期値 | 現状値 | 中間目標値 (2016 年度) | 目標値 (2022 年度) | 達成状況 |
|-----------------|----------------------|----------------------|--------------------|------------------|------|
| 入込観光客数 (日帰り) | 1,152 万人 (2010 年) | 1,275 万人 (2014 年) | 1,200 万人 | 1,250 万人 | A |
| 入込観光客数 (宿泊) | 490 万人 (2010 年) | 580 万人 (2014 年) | 620 万人 | 750 万人 | A |



出典：福岡市観光統計



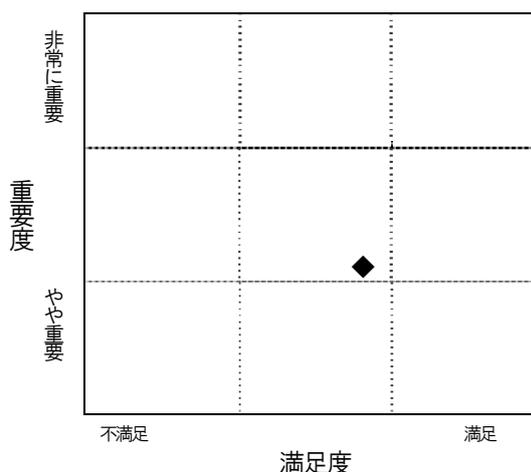
出典：福岡市観光統計

《市民満足度調査（2015 年度調査）》

観光資源となる魅力の磨き上げ
(観光・集客の推進)

| 満足度 | | 重要度 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 満足 | 30.3% | 重要 | 52.9% |
| 不満足 | 16.7% | 非重要 | 8.2% |
| どちらでもない | 49.7% | どちらでもない | 34.9% |

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9 区分評価】



指標等の分析

【成果指標】

- ・H26 は、NHK 大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映機会を捉えた黒田家関連史跡や文化財を核にしたイベントなどの実施、戦略的な観光プロモーション、MICE の誘致・開催支援の強化に加え、円安の進行等の結果、日帰り客、宿泊客ともに増え、入込観光客数全体としては3年連続で過去最高を更新した。
- ・H27 における市内の宿泊施設（従業者数 10 人以上）の客室稼働率は、ほぼ年間を通して前年の稼働率を上回り年平均 83.2%（観光庁調査結果）となっており、上昇傾向にある（H25：76.6%，H26：80.4%）。

3 事業の進捗状況

主な事業の成果

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・福岡城むかし探訪館及び三の丸スクエアについて、一体的に管理・運営することにより、福岡城・鴻臚館エリアの回遊性向上に努めた。また、NPOや大学と共働で、市民フォーラムや外国人向け魅力発信、若者への啓発事業等を実施した。
- ・福岡市の歴史・文化資源等のPR及び博物館への集客促進を図るため、関係部局と連携して、三の丸スクエアにて特別展示を実施した。
- ・CG等を活用したデジタル回遊システム「バーチャル時空散歩」については、定時ツアーを実施したほか、さくらまつりや福岡マラソン、ツーリズムEXPO ジャパンなどでPRを実施した。
- ・福岡城跡整備については、H26nに策定した「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、旧母里太兵衛邸長屋門の保存修理工事及び潮見櫓の部材調査を実施。
- ・また、「福岡城整備基金（福岡みんなの城基金）」では、包括連携協定を締結したYahoo! JAPANと連携し、「ふるさと納税フェスタ in 神宮外苑いちょうまつり」に出展するなど、基金の収益及び認知度の向上を図った。
*H28.3末現在：寄付件数537件、寄付金額17,180,853円
- ・吉武高木遺跡の整備については、H26nに着手した中央広場・遺構ゾーンBの工事をH28n中の竣工に向け継続した。
- ・鴻臚館跡整備については、「鴻臚館跡整備検討委員会」を開催し鴻臚館跡整備基本計画の検討を行った。
- ・庚寅銘大刀の活用に向けて、H27nは刀身全体の錆落としを実施し、ほぼ終了した。
- ・元寇防塁については、元寇防塁の案内板整備及び老朽した公衆トイレの改修を行うとともに、付近を通る福岡マラソンの際に、元寇防塁の認知を高めるために、のぼりや横断幕を作成・設置した。
- ・志賀島については、飲食店の食事券等と1日バスフリー乗車券がセットとなった旅行商品を開発し、モデル的に実施した。また、博物館で行われた「新・奴国展」にて、志賀島のPR及びアンケート調査を実施した。
- ・博物館では、文化庁の補助金を活用し、「金印」との関わりをもつ2つの地域（金印発見の地「志賀島」と金印を展示する博物館の所在地「シーサイドももち地区」）等と連携し、2つの地域を結ぶルートを《金印ロード》として、金印や2つの地域の歴史を語るシンポジウムの開催や、マップや展示物等による《金印ロード》上の史跡・遺跡などの紹介等を実施した。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・「福岡よる旅プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、「福岡よる旅」タイアップ、コラボ企画等の取組、「福岡よる博」の開催など全国へ向けた情報発信や話題づくりを実施した。
*8つの「福岡よる旅」コラボ企画の実施。
「福岡よる博」では100を超えるイベント及び150店余の飲食店が参加
- ・市内産農水産物の国内外へのPRや販路拡大のため開設したレストラン機能を有するマーケティング拠点施設（博多家^{ハカタハウス}）で市民や観光客に市内産農水産物を提供するとともに海外有名シェフやバイヤーとの商談会を開催。
- ・東京で開催された「東京ハーヴェスト」、「魚フェス」に参加し、市内産農水産物のPRを実施。
- ・大正・昭和期の貴重な歴史建築物である旧高宮貝島邸において、民間活力の導入を図り、保存・活用するため、調査・検討を実施。事業者公募に向け、公募要件等を検討。
- ・志賀島の金印公園について、地域の意見を取り入れながら、整備を実施。
- ・動物園のリニューアルについては、「センターゾーンエリア」に着手。H28nは、エントランス複合施設に着手。

- ・「アジアンパーティ」として、「アジアと創る」をコンセプトに、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞、クリエイティブフェスタの主要事業に加え、アジア、クリエイティブ、今をテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図りながら、9月～10月に集中開催。
(20事業、約57万人が参加)
 - *アジアフォーカス・福岡国際映画祭：229本の優れたアジア映画を上映したほか、監督や出演者を招いたイベントを実施(来場者数：39,046人)
 - *クリエイティブフェスタ：市役所西側ふれあい広場で、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRする象徴的な事業として実施。
(来場者数：延べ102,400人(過去最高))
- ・美術館リニューアル事業については、PFIでの実施を決定し、H27.4に入札公告を行った。これに対し、3グループから応募があり、総合評価一般競争入札方式により落札者を決定し、H28.2に事業契約を締結した。
- ・博物館が蓄積してきた歴史文化資源を、情報コンテンツ「てくてくミュージアム」として再構築し、AR技術等を活用した常設展示室と、博物館を起点とする歴史観光ルートをリンクさせて、スマートフォンアプリに提供。更に、HP・ブログ・SNSリニューアル、Google アートプロジェクトへの参画、新たなミュージアムグッズ販売等により積極的に情報を発信した。

4 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等(新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等)
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

- ・少子高齢化が進展し、世界規模での都市間競争が厳しさを増す中、福岡市の発展と成長を図るには、国内外との交流による経済活性化が必要。特に、観光産業は、裾野が広く、市民の9割が従事する第3次産業への波及効果も高いなど、福岡市の特性にあった産業である。
 - *観光客の消費金額3,213億円、経済波及効果4,680億円。3.3万人の雇用、51.2億円の税収が発生(H22推計値)
 - *目標：観光客数 H22：1,642万人 →H34：2,000万人
観光客による直接消費額 1,700億円増

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・発地側での訴求力、着地側での満足度を高めるため、イメージを具体化する情報発信や商品開発、イベント等を実施できる体制づくりが必要。
- ・回遊拠点である三の丸スクエア、福岡城むかし探訪館への集客向上を図り、福岡城・鴻臚館エリアの魅力向上を図ることが必要。特に多言語によるガイドなど外国人観光客の受入環境整備が不足している。
- ・元寇防塁については、点在している史跡の保存整備について、観光の視点での魅力が不十分。
- ・志賀島については、市街化調整区域の振興等との関係から、市全体の進め方を踏まえながら、魅力向上を検討することが必要。また日帰りの観光客が多いため、宿泊等を通じてお金を落とすことが少なく、観光客の来訪を地域振興につなげることが難しい。
- ・鴻臚館跡の保存活用に向けた適切な整備計画の策定、鴻臚館跡全容の未解明部分の計画的な調査が必要。
- ・吉武高木遺跡は、市内に残る貴重な歴史的資産として広く周知するとともに史跡地の活用の方策をさらに検討することが必要。
- ・庚寅銘大刀についてはH28nに復元品、H29nにレプリカを作成予定であり、国の重要文化財指定になるよう文化庁の協議が必要。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・山笠・どんたくに代表される祭りや、クリエイティブフェスタ、アジアフォーカス福岡国際映画祭、福岡ミュージックマンスなどのイベント、また、魚介類・博多ラーメン・もつ鍋・水炊きなど「食」の魅力、さらに、文化・スポーツ・エンターテインメントなど、豊かな魅力を持っているが、来福客に十分に伝わっていない。

- ・農水産物の新商品開発、ブランド化については、特に、「第1回かき日本一決定戦（H24.4開催）」で2位となった唐泊恵比須かきのカキ小屋が好評であり、海外販売が軌道に乗りつつあるなど、一定の成果を上げているが、観光資源となるにはさらなる取組み強化が必要。
- ・特色のある公園づくりや動植物園の再生においては、相当の事業費が必要であるため、民間活力の導入など積極的な検討が必要。
- ・「福岡よる博」など、福岡よる旅プロジェクトの取組みは、民間主体で進めていくことが望ましく、今後検討が必要。
- ・金印公園、友泉亭公園など高い歴史文化資源を有する公園について、さらなる活用の検討が必要。
- ・動物園再整備においては、動物の個別的特徴や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点からの魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。
- ・美術館リニューアル事業については、ユニバーサルデザインへ対応するとともに、時代や市民のニーズに応える集客交流拠点として魅力向上を図ることが必要。
- ・博物館を歴史文化観光情報の発信拠点とするために、「人」「情報」「多言語」「ユニバーサル」等の視点のバランスをとりながら事業の推進が必要。

5 今後の取組みの方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・福岡城跡整備については「国史跡福岡城跡整備基本計画」（H26.6策定）に基づき、H28nは、多聞櫓の保存修復工事を実施予定であるとともに、「福岡城整備基金」のPRを図り、市民と一体となった整備を推進する。
- ・鴻臚館跡整備についてはH27.3に策定した「整備基本構想」を踏まえ、「整備基本計画」をH28nに策定予定。
- ・福岡城・鴻臚館跡整備は大濠公園と舞鶴公園の一体化利用を図るセントラルパーク構想と連携しながら実施する。
- ・吉武高木遺跡については、H28n度中の早期整備竣工を目指して、中央広場・遺構ゾーンBの工事を継続。史跡の有効な活用には地域と連携した取組みが必要であるため、継続して地域と協議継続。また、竣工後の全面公開に向けて、H29n度当初のオープニングイベントの開催や積極的な広報活動の展開など、市民や地域住民の気運を高めるための周知活動を実施する。
- ・庚寅銘大刀保存活用事業については、H29nに詳細な報告書を作成予定。国指定の重要文化財になるよう文化庁と協議し、また早い段階で福岡市博物館に常設展示できるよう努める。
- ・近くを通る福岡マラソンの実施に併せて、元寇防塁に対する認知度を高め、魅力をPRするとともに、元寇防塁だけでなく、その他の歴史・文化資源や景色・景観、食などを組み合わせた回遊プログラムの開発など、西部エリア全体としての回遊促進に向けて検討する。
- ・志賀島については、地元「志賀島振興協議会」において策定された「志賀島活性化構想 2015」の中にある提案を踏まえ、関係局区と共に、地域や地元事業者とも連携を図りながら、引き続き、集客促進と地域振興に取り組む。また、市街化調整区域の立地規制緩和に基づき、関係部局と連携しながら、新規事業者の参入支援や新たな魅力スポットづくりなど、集客促進、観光消費拡大につながる取組みを進める。
- ・三の丸スクエア及び福岡城むかし探訪館において、福岡城・鴻臚館エリアの総合ガイドランス・観光PRの拠点として相応しい施設となるよう、民間企業・団体と共働でイベントや広報を行うなど、集客向上に向けた取組みを推進する。
- ・フォーラムや出前事業などによる市民・若者世代への啓発及び外国語での案内ツールの検討など、NPOと共働で外国人観光客の受入環境整備を進める。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・H28nで4年目となるアジアンパーティについては、市民に対して背景・趣旨や目的等を一層分かりやすく周知し、各事業における連携を強化していくとともに、より効果的な事業展開を検討する。

- ・アジアフォーカス・福岡国際映画祭については、アジアンパーティの主要事業の1つとして、映画だけでなく、映像分野を一体的に振興し、効果的な広報に努めることで、『クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか』のブランディングを推進する。
- ・クリエイティブフェスタについては、アジアンパーティの中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図るとともに、異業種間の連携促進によるビジネス創出やクリエイティブ関連産業の集積を支援する。
- ・福岡の夜の観光の魅力や楽しみ方をPRするため、夜の観光の効果的な情報発信を継続。
- ・美術館リニューアル事業については、H28.9に美術館を休館し、H29.6から改修工事を実施したのち、H31.3にリニューアルオープン予定。
- ・博物館においては、展覧会をはじめとする公開事業等を通じて、資料の歴史文化資源としての価値創出に努めるとともに、ユニバーサルなおもてなしの場として、来館者満足度の一層の向上を図る。
- ・動植物園再生事業については、人と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の改善を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へとリニューアルを推進する。
今後、H32nまでに動物園正面エントランス部（センターゾーン）を中心に整備を行い、H33n以降は「アフリカの草原エリア」、「日本の自然エリア」をはじめとする区域を整備する。
- ・唐泊恵比須かきをはじめとする市内一次産品の更なるブランド化・販路拡大に向け、マーケティング拠点施設（博多家^{ハカタハウス}）を活用したPR・商談等や養殖新技術の推進に引き続き取り組むとともに、その他の農水産物についてもブランド化、新商品開発を推進する。

事業一覧シート

| | |
|-------|----------------------------|
| 分野別目標 | 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている |
| 施策 | 5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ |

| | | | | | |
|-----------------|---|--------|---|---------|-----------|
| 日本で唯一の歴史資源活性化事業 | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課 | 27年度事業費 | 58,451 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 34,186 千円 |
| 対象 | 福岡市内外 | 目的 | 「日本に一つしかない」重要な歴史・文化資源(鴻臚館跡、福岡城跡、元寇防塁、志賀島など)を観光資源として更に磨き上げ、魅力向上に取り組んでいく。 | | |
| 実施内容 | <p>【鴻臚館、福岡城】 「福岡城むかし探訪館」、「三の丸スクエア」を運営するとともに、デジタル回遊システム「バーチャル時空散歩」を活用したガイドツアーを実施した。</p> <p>【元寇防塁】 元寇防塁周辺の地区案内板の設置及び公衆便所改修を行うとともに、福岡マラソンに実施時に、元寇防塁の認知を高めるために、のぼりや横断幕を設置した。</p> <p>【志賀島】 食事券等と1日バスフリー乗車券がセットとなった旅行商品を造成し、モデル的に実施した。 また、金印まつりや「新・奴国展」と連携して情報発信を行った。</p> | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | デジタル回遊システムツアー参加者数 | 3,000 | 1,702 | 57% | c |
| 成果の指標 | 福岡城むかし探訪館来館数 | 50,000 | 33,273 | 67% | |
| 補足 | — | | | | |

| | | | | | |
|---------------------------|---|--------|---|---------|----------|
| 鴻臚館・福岡城の整備①(鴻臚館跡整備基本計画事業) | | 所管課 | 経済観光文化局大規模史跡整備推進課 | 27年度事業費 | 3,507 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 4,717 千円 |
| 対象 | 国史跡鴻臚館跡 | 目的 | 鴻臚館跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。 | | |
| 実施内容 | (株) エスティ環境設計研究所に委託を行い、国史跡鴻臚館跡の保存・整備の具体的内容やスケジュールを示す基本計画の検討を行った。 基本計画の内容については、学識経験者からなる「鴻臚館跡整備検討委員会」において、意見交換等を行った。 | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | 整備構想・計画の策定(単位:%) | 90 | 90 | 100% | a |
| 成果の指標 | 鴻臚館跡展示館の入館者(単位:人) | 28,000 | 28,575 | 102% | |
| 補足 | — | | | | |

| | | | | | |
|-------------------------|----------------------|--------|---|---------|----------|
| 鴻臚館・福岡城の整備②(福岡城跡復元整備事業) | | 所管課 | 経済観光文化局大規模史跡整備推進課 | 27年度事業費 | 9,276 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 5,479 千円 |
| 対象 | 国史跡福岡城跡 | 目的 | 福岡城跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。 | | |
| 実施内容 | 福岡城潮見櫓部材調査業務委託を実施した。 | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | — | — | — | — | c |
| 成果の指標 | 福岡城むかし探訪館の入館者数(単位:人) | 50,000 | 33,273 | 67% | |
| 補足 | — | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|--------|--|---------|------------|
| 吉武高木遺跡環境整備事業 | | 所管課 | 経済観光文化局文化財保護課 | 27年度事業費 | 80,498 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 203,197 千円 |
| 対象 | 市民 | 目的 | 早期整備を行い史跡地を一般に公開するとともに、市民が主体的に活用できる場として提供する。 | | |
| 実施内容 | H26nに着手した中央広場、遺構ゾーンBの工事継続 地元団体との協議により整備・活用に関する検討を行い、活用事業を実施した。 | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | 整備工事完了面積(m ²) | 20,000 | 20,000 | 100% | a |
| 成果の指標 | — | — | — | — | |
| 補足 | — | | | | |

| 福岡で「もう1泊」推進事業 | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課 | | 27年度事業費 | 3,200 | 千円 |
|---------------|--|------|---|--------|---------|---------|----|
| | | | | | 28年度事業費 | 100 | 千円 |
| 対象 | 観光客 | 目的 | 福岡の夜の魅力の情報発信により、観光客に実際に訪れてもらい、福岡での夜の回遊や長期滞在(宿泊)を促す。 | | | | |
| 実施内容 | 「福岡よる旅」を活用した夜の観光のブランド化、イメージの確立と全国へ向けた情報発信や話題づくり。 ○「福岡よる旅プロジェクト実行委員会」の立ち上げ ○「福岡よる旅」コラボ企画 ○「福岡よる博」の開催 ○「福岡よる旅」サポーターの募集 ○「福岡よる旅」ホームページでの情報発信 | | | | | | |
| | | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | - | | - | - | - | b | |
| 成果の指標 | - | | - | - | - | | |
| 補足 | 民間事業者による「福岡よる旅」のイメージを活用する様々な企画が行われている。 | | | | | | |

施策評価シート

| | | | |
|--------|---|-----|---------|
| 目標5 | 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている | | |
| 施策5-2 | 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり | | |
| 施策の課題 | 自然や歴史を身近に感じることのできる大濠公園・舞鶴公園一帯は、福岡市の魅力の一つであり、都心に近い市民の憩いの場として、また観光・集客資源として活用する必要があります。 | | |
| 施策の方向性 | 都心に近い貴重な緑地空間として広く市民に親しまれている大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用を図り、市民の憩いと集客の拠点づくりを進めます。特に舞鶴公園については、歴史文化資源である「鴻臚館跡」、「福岡城跡」の二つの国史跡を活用した整備を進めます。 | | |
| 施策主管局 | 住宅都市局 | 関連局 | 経済観光文化局 |

《施策事業の体系》 ★：新規事業 ◆：区事業 / 太字：重点事業 その他：主要事業

(施策5-2) 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

●市民の憩いと集客の拠点づくり(大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等)

└ セントラルパーク構想推進事業

└ 鴻臚館・福岡城の整備[鴻臚館跡整備基本計画事業、福岡城跡復元整備事業、福岡城集客機能検討(終了)]<再掲5-1>

【住宅都市局、経済観光文化局】

【経済観光文化局】

1 施策の評価（施策の進捗状況）

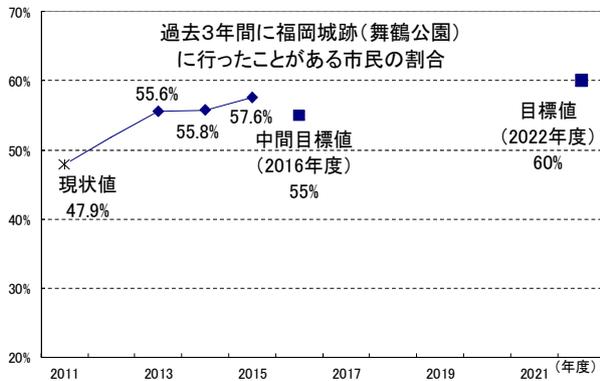
◎：順調

- ・過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合は、中間目標値を上回っている。
- ・セントラルパーク基本計画の策定に向けた検討委員会の設置・開催，回遊性向上を図るための環境整備 福岡城さくらまつりの拡充，舞鶴中学校跡地における駐車場開設など，事業は順調に進んでいる。

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

| | 初期値 | 現状値 | 中間目標値 (2016年度) | 目標値 (2022年度) | 達成状況 |
|--------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-----------------|------|
| 過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合 | 47.9% (2011年度) | 57.6% (2015年度) | 55% | 60% | A |



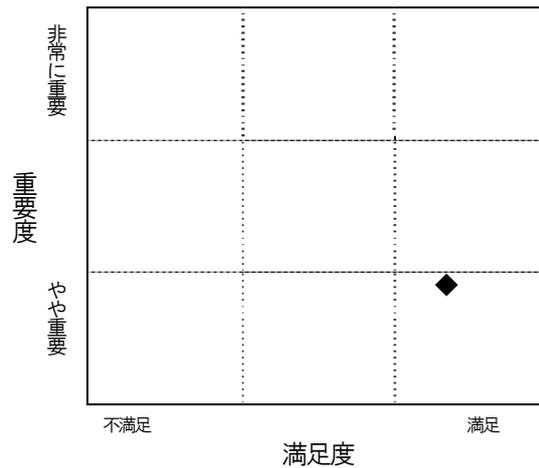
出典：福岡市市長室「市政に関する意識調査」

《市民満足度調査(2015年度調査)》

緑と歴史・文化のにぎわいづくり
(大濠公園・舞鶴公園の整備と一定的活用)

| 満足度 | | 重要度 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 満足 | 36.5% | 重要 | 46.6% |
| 不満足 | 9.9% | 非重要 | 9.9% |
| どちらでもない | 50.2% | どちらでもない | 39.4% |

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



指標等の分析

【成果指標】

- 関係者が連携した様々な取組みにより来園者が増加しているが、今後、各計画に基づく整備を進める中で、市民の関心や満足度がどのように推移するか注視する必要がある。

3 事業の進捗状況

主な事業の成果

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

- ・「セントラルパーク基本計画」の策定に向けた検討委員会の設置、開催。
- ・非史跡施設である城内住宅及び清掃用プレハブ詰所の移転を実施。
- ・回遊性向上を図るための環境整備を実施（御高屋敷外周フェンス撤去、三の丸スクエア出入口増設）。
- ・史跡としての魅力向上のため、見所づくりを実施。
（本丸・二ノ丸等での樹木整理、桜の名所活性化、清掃用プレハブ詰所跡地整備）
- ・賑わいづくりに向けた広場整備やイベント実施。
*鴻臚館広場の整備・供用（約3ha）
*福岡城さくらまつりの拡充（13日間：過去最高の約35万人来場）
*新たなイベント受入れ（飲食、アウトドア体験、緑化啓発、マラソン等）
- ・縣市連携組織として、大濠・舞鶴公園連絡会議を設置。
- ・市民、企業、NPO等との共働による事業を実施。
*NPO福岡城市民の会との共働事業（新たなガイドツアーやイベント等）
*市民ボランティアとの共働（花壇植付け等）
*福岡市造園建設業協会、福岡市緑化協会との共働（石垣除草ボランティア）
- ・舞鶴中学校跡地における駐車場（256台）開設。〔国による整備、民間運営〕（H27.8）
- ・福岡城整備を市民と一体となって推進するための「福岡城整備基金」の寄付促進に取り組んだ。
*H28.3現在：寄付件数537件、寄付金額17,180,853円

4 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

- ・非史跡施設（福岡高等裁判所、城内住宅、運動施設等）の早期城外移転が必要。
*城内住宅移転率：71%
- ・非史跡施設移転や公園整備に関する財源の確保が必要。
- ・福岡城・鴻臚館の全容解明に向けた発掘調査が必要（発掘調査完了率：3.7ha/48.0ha=7.7%）。
- ・樹木整理や修景・再整備に関する市民理解（緑への愛着、生物多様性等）の向上が必要。
- ・着実な構想実現に向けて推進体制の強化（県の連携、行政分野間の連携等）が必要。
- ・公園を利用する際の手続きや条件が分かりにくい（都市公園法、文化財保護法）。
- ・福岡城整備基金については、福岡城の早期復元に向けた寄付の拡大が必要。

5 今後の取組みの方向性

- ・非史跡施設の移転について、関係機関と連携しながら、具体化・事業化に向けた検討を推進。
- ・非史跡施設の城外移転、発掘調査、公園整備等について、計画的に財源を確保しながら進めるため、構想を具体化する基本計画を策定する。
- ・樹木整理等に関する市民の理解を深めるため、広く市民意見を収集できる方策等を検討する。
- ・H27nに設置した縣市連携組織を充実・拡大する。
- ・公園の利活用促進を図るため、イベント利用をしやすくする「手引書（ルールづくり）」を作成する。
- ・三の丸スクエア及び福岡城むかし探訪館について、福岡城・鴻臚館エリアの総合ガイドダンス・観光PRの拠点として相応しい施設となるよう、集客向上に向けた取組みを推進。
- ・福岡城整備基金については、寄付のリピーターを増やすとともに、大口寄付の拡大や、舞鶴公園を活用したイベント等によるPRにより、基金の認知度を上げる取組みを推進。

事業一覧シート

| | |
|-------|----------------------------|
| 分野別目標 | 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている |
| 施策 | 5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり |

| | | | | |
|----------------|-----|--------------------------|---------|------------|
| セントラルパーク構想推進事業 | 所管課 | 住宅都市局みどりのまち推進部 みどり政策課 | 27年度事業費 | 432,729 千円 |
| | | | 28年度事業費 | 290,710 千円 |

| | | | |
|----|----------------------|----|---|
| 対象 | ①県民・市民 ②国内外からの来街者 | 目的 | ①大濠公園・舞鶴公園が、一体となって日常的な憩いの場として利用されている状態 ②両公園が本市の貴重な観光資源として磨き上げられ、魅力的な観光地となり、福岡の一泊の目的地となっている状態 |
|----|----------------------|----|---|

| | |
|------|---|
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・「セントラルパーク基本計画」の策定に向けた検討委員会の設置、開催 ・非史跡施設である城内住宅及び清掃用プレハブ詰所の移転を実施 ・回遊性向上を図るための環境整備を実施 <ul style="list-style-type: none"> * 御高屋敷外周フェンス撤去、三の丸スクエア出入口増設 ・史跡としての魅力向上のため、見所づくりを実施 <ul style="list-style-type: none"> * 本丸・二ノ丸等での樹木整理、桜の名所活性化、清掃用プレハブ詰所跡地整備 ・賑わいづくりに向けた広場整備やイベント実施 <ul style="list-style-type: none"> * 鴻臚館広場の整備・供用（約3ha） * 福岡城さくらまつりの拡充（13日間：過去最高の約35万人来場） * 新たなイベント受入れ（飲食、アウトドア体験、緑化啓発、マラソン等） ・県市連携組織として、大濠・舞鶴公園連絡会議を設置 ・市民、企業、NPO等との共働による事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> * NPO福岡市民の会との共働事業（新たなガイドツアーやイベント等） * 市民ボランティアとの共働（花壇植付け等） * 福岡市造園建設業協会、福岡市緑化協会との共働（石垣除草ボランティア） ・舞鶴中学校跡地における駐車場（256台）開設 [国による整備、民間運営]（H27.8） ・福岡城整備を市民と一体となって推進するための「福岡城整備基金」の寄付促進に取り組んだ <ul style="list-style-type: none"> * H28.3現在：寄付件数537件、寄付金額17,180,853円 |
|------|---|

| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
|-------|------------------------------------|--------|--------|------|---------|
| 活動の指標 | セントラルパーク基本計画の策定 (%) | 50.0 | 40.0 | 80% | a |
| 成果の指標 | 過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合 (%) | 53.6 | 57.6 | 107% | |
| 補足 | — | | | | |

施策評価シート

| | | | |
|--------|--|-----|------------------|
| 目標5 | 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている | | |
| 施策5-3 | 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしい おもてなし環境づくり | | |
| 施策の課題 | 福岡市では、来街者の増大に伴い、ホテル・旅館の施設数及び客室数共に増加傾向が続いています。近年、外国人の来訪が増加する中で、外国語対応、外国語案内表示などの課題もあります。 | | |
| 施策の方向性 | おもてなしの心を醸成するための市民参加事業や啓発事業、観光ボランティアの充実などにより、市民一人ひとりが誇りと自覚をもてる観光都市福岡づくりを進めます。また、交通便利性の向上やユニバーサルデザインの普及などにより、快適にまちめぐりができ、外国人を含め多くの人が何度でも行ってみたいと感じる環境づくりをめざします。 | | |
| 施策主管局 | 経済観光文化局 | 関連局 | 市長室、住宅都市局、道路下水道局 |

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-3)情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

- おもてなしの向上
 - ★まち歩き観光振興事業・史跡めぐりの充実強化 【経済観光文化局】
 - ★おもてなし推進事業・戦略的情報発信事業 【経済観光文化局】
 - 都心のまちづくりの推進(都心のエリアマネジメントの推進)＜再掲4-6＞ 【総務企画局、区役所】
 - 外国人向け観光情報サイトの機能強化 【経済観光文化局】
 - 公衆無線LAN環境整備 【市長室】
 - ◆おもてなしの人材活用事業＜再掲:博多区＞ 【博多区、経済観光文化局】
- 交通便利性や都心回遊性の向上
 - 快適で高質な都心回遊空間の創出事業(にぎわい創出空間検討等) 【住宅都市局、道路下水道局、区役所】
 - 来訪者をもてなす道づくり(都市サインの整備、道路緑化等) 【道路下水道局、区役所】
 - 都心部観光バス対策事業＜再掲8-1＞ 【経済観光文化局】
 - ◆都心部まちめぐり推進事業＜再掲:中央区＞ 【中央区、経済観光文化局】

1 施策の評価（施策の進捗状況）

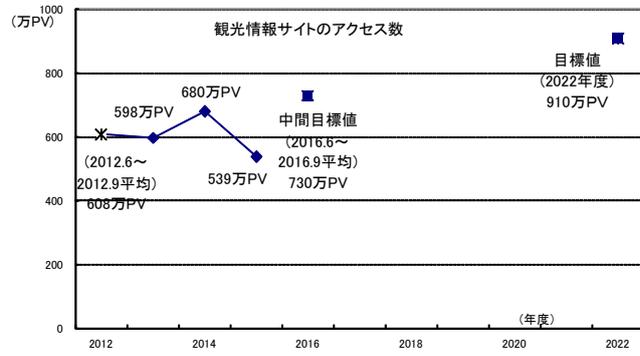
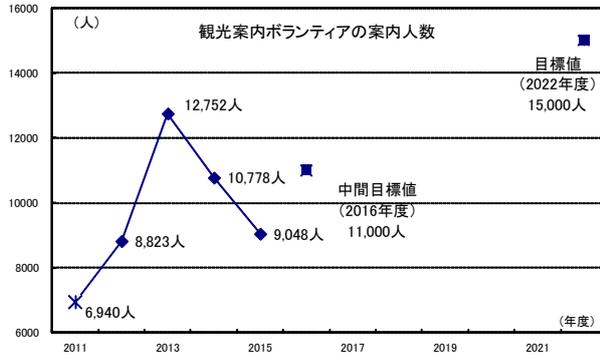
○：概ね順調

- ・観光案内ボランティアの案内人数は、初期値より向上はしているものの、中間目標値に向けたペースからは遅れている。観光情報サイトのアクセス数は、中間目標に向けたペースから遅れている。
- ・街歩きツアーの実施、外国人旅行者の受入環境向上に向けインバウンド対策セミナーの開催や外国人向けHP・SNS等での情報発信など、事業は概ね順調に進んでいる。

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

| | 初期値 | | 現状値 | 中間目標値 (2016年度) | 目標値 (2022年度) | 達成状況 |
|---|--------------------------|--------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------|------|
| 観光案内ボランティアの案内人数 | 6,940人 (2011年度) | 8,823人 (2012年度) | 9,048人 (2015年度) | 11,000人 | 15,000人 | B |
| 観光情報サイトのアクセス数(観光情報サイト「よかなび」の月間PV(ページビュー)) | 608万PV (2012年6月～9月平均) | | 539万PV (2015年6月～9月平均) | 730万PV (2016年6月～9月平均) | 910万PV | C |



出典：福岡市経済観光文化局調べ

出典：福岡市経済観光文化局調べ

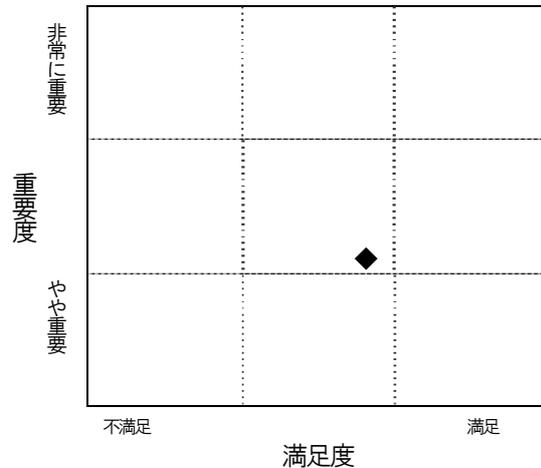
《補完指標》

なし

《市民満足度調査(2015年度調査)》 来街者にやさしいおもてなし環境づくり

| 満足度 | | 重要度 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 満足 | 27.2% | 重要 | 51.1% |
| 不満足 | 11.8% | 非重要 | 8.1% |
| どちらでもない | 57.4% | どちらでもない | 37.0% |

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



| |
|--|
| 指標等の分析 |
| <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内ボランティアの案内人数は、大河ドラマ「軍師官兵衛」により急増した「まち歩き」需要が減り、前年度に比べると、全体の案内人数は減少している。 ・観光情報サイトのアクセス数（6月～9月の平均月間PV数）については、H26nの680万PVが、H27nに539万PVに減少している。H20nの運用開始から7年が経過し、文字情報が中心の画面構成に古さが目立ってきたことなどが影響していると考えられる。 |
| 3 事業の進捗状況 |
| 主な事業の成果 |
| <p>●おもてなしの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新コースの開発により、企画募集型の案内人数が増加。黒田家ゆかりの地まち歩き26回、福岡・博多”新”発見まち歩き45回 合計1,104名(合計人数の昨年度比2.07倍)。 ・(ぐるなび包括連携協定) インバウンド対策セミナー(延べ279名参加)を開催。 ・観光情報サイト「よかなび」について、画像を中心とした体系的なコンテンツの再整理やスマートフォンなどの端末環境への十分な対応など、閲覧者視点に立ったリニューアルを実施。 |
| <p>●交通利便性や都心回遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。 ・西中洲の魅力づくりに向けた道路整備と景観誘導、はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備を予算化し、H28n着手予定。 ・水辺を活かした空間の魅力づくりを推進するため、水上公園の再整備に着手し、H28.7供用開始予定。 ・国が整備する国道202号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出に取り組むこととしており、現在、国において迂回路橋の整備を行っている。 ・歴史に配慮した道づくりとして承天寺・住吉神社周辺の道路整備、来訪者に分かりやすく道案内をするための都市サインの整備を実施。 ・福岡市総合交通戦略協議会において、観光バス関連施設の整備に関する実施施策を含む、福岡市総合交通戦略を策定。 |
| 4 施策推進上の課題 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会経済情勢の変化等(新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等) ・施策、事業を進めていく上での主な課題 |
| <p>●おもてなしの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人旅行者の主な不安要因は円滑な意思疎通ができないことであり、関連施設(観光施設・案内所・宿泊施設・交通機関・飲食店等)での受入環境の向上が必要。特に東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け国を挙げてインバウンド振興に取り組んでおり、今後も増加が予想される外国人旅行者に対する受入環境の整備が必要。 ・大河ドラマ「軍師官兵衛」により急増した「まち歩き」の依頼件数について、大河ドラマ終了後、減少が続いているため、今後は利用者増加に向け、ガイド内容の拡充を検討する必要がある。また、増加する外国人観光客へ対応するため、外国語に対応できる人材を確保する必要がある。 |
| <p>●交通利便性や都心回遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、地下鉄七隈線の延伸や民間ビルの更新などの開発機運を捉え、戦略的な推進が必要。 ・都心部では、施設案内や道路標示など様々なサインの統一感がなく、デザインの統一や多言語表記が必要。 ・都心部の恒久的な観光バス乗降場の候補地については、適地の確保が困難。 |

5 今後の取組みの方向性

●おもてなしの向上

- ・市有文化施設等の多言語対応や地域の観光資源を活用した体験プログラムの開発の促進などを実施するとともに、宿泊施設不足の課題や外国人観光客のマナー・日本文化への理解促進等に取り組む。また、ライオンズクラブ国際大会を契機とした官民共働での更なる外国人の受入環境整備を図る。
- ・新コースの開発等によりガイド内容の拡充を行なうとともに、観光客への周知を図るため広報を強化する。また、ガイドの多言語化を図る。
- ・観光情報サイト「よかなび」については、より多くの旅行者に福岡の魅力的な観光情報を届けるとともに、利便性の高い情報を提供することにより、福岡観光の質を高め、満足度の向上に繋げていく。
- ・「福岡歴史なび」については設定している未公開ルート（7ルート）を順次公開する。

●交通利便性や都心回遊性の向上

- ・引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。

事業一覧シート

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 分野別目標 | 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている |
| 施策 | 5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり |

| | | | | | |
|--|--|--------|--|---------|----------|
| まち歩き観光振興事業・史跡めぐりの充実強化①（観光案内ボランティアの充実強化） | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課 | 27年度事業費 | 7,650 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 6,656 千円 |
| 対象 | 福岡市民・福岡を訪れる観光客 | 目的 | 福岡市を訪れる多くの訪問客に、ガイドの巧みな話術とおもてなしで、快適にまちをめぐり、魅力に触れて満足していただくことで、福岡市のファンを増やす。 | | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 派遣依頼にともなう観光案内活動を実施。 市役所ロビーに2名、町家ふるさと館に1名が毎日（12/28～1/3を除く）常駐し、無料の定時ツアーや周辺の観光案内を実施。 福岡城むかし探訪館にて週4日（月・水・金・日曜日）常駐し、周辺の観光案内を実施。 企画募集型のまち歩きツアーを定期的に実施。新コースの開発。 博多情緒めぐり期間中のまち歩きの実施。 | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | 観光案内ボランティアの案内人数 | 10,100 | 9,048 | 90% | b |
| 成果の指標 | — | — | — | — | |
| 補足 | — | — | — | — | |

| | | | | | |
|--|---|--------|---|---------|----------|
| まち歩き観光振興事業・史跡めぐりの充実強化②（歴史・文化遺産まち歩き） | | 所管課 | 経済観光文化局文化財部文化財保護課 | 27年度事業費 | 1,041 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 2,000 千円 |
| 対象 | これまで文化財に関心の薄かった市民。市外からの観光客 | 目的 | <ul style="list-style-type: none"> 文化財の存在を知ってもらい、保護意識を高めてもらうきっかけとする。 福岡の歴史と文化財を他の観光資源と結びつけて、より幅の広い観光をしてもらう。 | | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> H24nに制作したスマートフォンアプリに、まち歩きルート、1ルート分を追加した。 H27.12.5「金印」ルートを追加公開。 現在計9ルートを公開運用中。 | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | 製作するガイダンスシステムのコース数(単位ルート) | 1 | 1 | 100% | c |
| 成果の指標 | システムのダウンロード数（運用開始はH25nから） | 35,000 | 24,108 | 69% | |
| 補足 | — | — | — | — | |

| | | | | | |
|------------------|--|--------|--|---------|----------|
| おもてなし推進事業 | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課 | 27年度事業費 | 3,510 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 0 千円 |
| 対象 | 外国人旅行者と接する機会が多い観光従事者等 | 目的 | 外国人旅行者に対し、語学や文化などの面でストレスなくサービスを提供できている状態 | | |
| 実施内容 | <p>H27.7に締結した、ぐるなびとの包括連携協定により、飲食店を対象とした「インバウンド対策セミナー」を開催及び外国語メニュー等を備えたインバウンド対応可能飲食店マップの制作。</p> <p>【インバウンド対策セミナー】</p> <p>○H27.8.26 参加者：173名 内容：訪日外国人が飲食店に求めていること、飲食店におけるインバウンド対策の今</p> <p>○H28.2.16 参加者：106名 内容：福岡市のMICEの取り組み、ぐるなびのインバウンドへの取り組み、飲食店の訪日外国人受入れ成功事例の共有</p> | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | 研修受講者数 | 200 | 279 | 140% | a |
| 成果の指標 | 外国人入国者数 | — | 2,078,026人 | — | |
| 補足 | — | — | — | — | |

| | | | | | |
|------------------|---|--------|--|---------|---------|
| 戦略的情報発信事業 | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課 | 27年度事業費 | 0 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 0 千円 |
| 対象 | 国内外の旅行者 | 目的 | 福岡市内の回遊性の高さにより、滞在時に高い満足度を得られている状態をつくる。 | | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 外国人向けの市内交通機関共通フリーパス「福岡ツーリストシティバス」や観光バス「福岡オーブントップバス」について、福岡市観光情報サイト「よかなび」内で新たに紹介ページを作成。 海外プロモーション時に紹介するとともに、ブロガー等招請時に、「福岡ツーリストシティバス」や「福岡オーブントップバス」を実際に利用していただき、SNS等で利用体験やその利便性について情報発信に繋げた。 | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | 広報事業の実施回数 | 2 | 3 | 150% | a |
| 成果の指標 | 入込観光客数 | — | — | — | |
| 補足 | — | — | — | — | |

| | | | | | | |
|------------------------------|---|--------|-------------------------------------|---------|---------|----|
| 快適で高質な都心回遊空間の創出事業（終了） | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課 | 27年度事業費 | 0 | 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 0 | 千円 |
| 対象 | 観光客 | 目的 | 博多部エリアの一体的な魅力向上と観光客の博多部エリアへの誘導機能の強化 | | | |
| 実施内容 | 博多部への集客拡大、周辺への回遊促進に向けた方策の検討のための調査実施及び都心回遊強化推進会議「御供所・冷泉プロジェクト」への調査結果報告について、H25n実施・完了 | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | — | — | — | — | — | |
| 成果の指標 | — | — | — | — | | |
| 補足 | 「都心回遊強化推進会議」のプロジェクトとして、所管課と協議しながら各種調査を実施し、調査結果を共有。 | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------------|--|--------|--|---------|---------|----|
| 快適で高質な都心回遊空間の創出事業 | | 所管課 | 住宅都市局都市づくり推進部都心創生課 | 27年度事業費 | 179,000 | 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 76,667 | 千円 |
| 対象 | 都心部において働く人、住む人、訪れる人など、あらゆる人 | 目的 | ・回遊性強化により、都心部の拠点同士の相乗効果が発揮され、都心部全体の集客力・活力が向上する。 ・歩いて楽しく、魅力ある回遊空間の形成により、働く人、住む人、訪れる人の心に残る美しいまちとなる。 | | | |
| 実施内容 | ○都心回遊に関する庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて、事業の全体最適化を図っている。 (事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案・予算化) <快適で高質な都心回遊空間の創出事業【179,000千円】> ・界わい性を活かした魅力ある回遊空間創出の検討 ・個性や界わい性のある地区の抽出及び特性の把握、界わいルートやコンセプトの検討 ・水辺の公園再整備 水上公園（民間活力導入）・清流公園の再整備 | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | エリマネ組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数 | 50 | 63 | 126% | a | |
| | エリマネ組織等による公開空地等でのイベント開催件数 | 8 | 13 | 163% | | |
| 成果の指標 | 都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))(万人) | 10.7 | — | — | | |
| 補足 | — | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------------|--|--------|---|---------|-----------|----|
| 快適で高質な都心回遊空間の創出事業 | | 所管課 | 道路下水道局計画部道路計画課 | 27年度事業費 | 546,801 | 千円 |
| | | | | (見込み) | | |
| | | | | 28年度事業費 | 1,056,920 | 千円 |
| 対象 | 都心部の道路空間、及び国内外からの来訪者 | 目的 | 国際競争力の高い都心部となることで、多くの国内外からの来訪者が交流し、福岡都市圏及び九州の活力を牽引している。 | | | |
| 実施内容 | ○国道202号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出に係る橋梁整備負担金等 ○博多駅前通り設計検討 ○西中洲において市民・来街者が個性や界わい性を楽しめるような空間づくりの検討 ○天神地下街延伸時に整備した仮設車路を地下駐輪場及び地下通路として整備するための設計検討 | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | — | — | — | — | a | |
| 成果の指標 | 都心部を回遊する歩行者交通量(人) | 34,000 | 35,852 | 105% | | |
| 補足 | | | | | | |

施策評価シート

| | | | |
|--------|---|-----|-------------------|
| 目標5 | 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている | | |
| 施策5-4 | 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成 | | |
| 施策の課題 | MICEの推進にあたっては、世界の都市との競争が激しさを増しており、産学官民が一体となった誘致・支援の取組みが必要となっています。また、市内のコンベンション施設は高い稼働率が続いており、コンベンション施設の機能強化や多様なホテルの立地など、MICEを支えるインフラの充実が求められています。 | | |
| 施策の方向性 | 福岡都市圏内の大学、会議場、ホテルなどと連携しながら、会議、展示、飲食、宿泊などのMICEを支える多様な要素が一体として機能するよう、MICEの拠点機能を高めます。 また、ウォーターフロントに集積するコンベンション機能を強化するため、新たな展示場の整備や天神・博多駅との回遊性向上を進めます。 さらに、助成金やおもてなし事業による開催支援や地元企業とのマッチング支援などにより、リピーターの確保や新たなビジネスの創出など、地元経済への波及効果を高めます。 | | |
| 施策主管局 | 経済観光文化局 | 関連局 | 総務企画局、住宅都市局、港湾空港局 |

〈施策事業の体系〉 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-4)交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

- MICE機能の強化
 - 国内を代表するコンベンション拠点の形成 【経済観光文化局】
 - 都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化の検討<再掲4-5> 【住宅都市局】
 - 産学官民連携による国際競争力強化事業<再掲6-1> 【総務企画局】
 - 中央ふ頭整備事業(にぎわいづくり、回遊性向上、景観整備等)<再掲8-1> 【港湾空港局】
- MICE誘致の推進
 - MICE誘致推進事業 【経済観光文化局】
 - ★新しいMICEワンストップ体制の運営 【経済観光文化局】
 - ★ライオンズクラブ国際大会準備事業 【経済観光文化局】
 - ★国家戦略特区MICE推進事業 【総務企画局】
 - ★MICEによる福岡版クールジャパンの推進 【経済観光文化局】

1 施策の評価（施策の進捗状況）

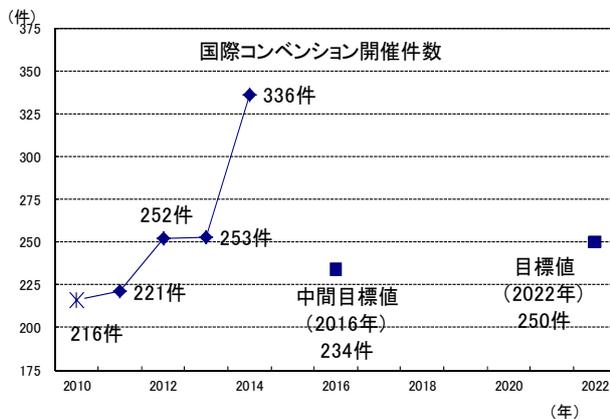
○：概ね順調

- ・国際コンベンション開催件数は、中間目標値を超えて順調に進捗している。
国内コンベンション誘致件数は、中間目標に向けたペースから遅れている。
- ・海外での展示会・MICEセミナーの開催や国家戦略特区道路占用事業として公道を活用したイベント、ファッションウィーク福岡の実施など、事業は順調に進んでいる。

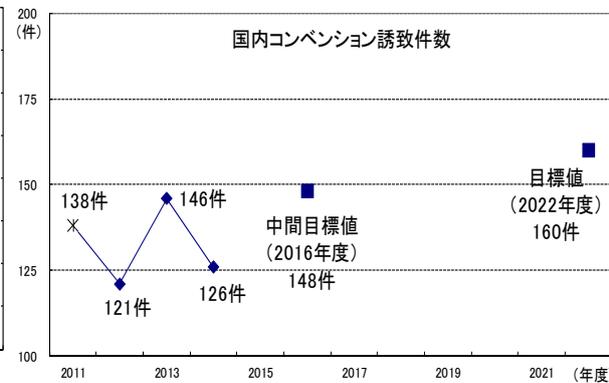
2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

| | 初期値 | 現状値 | 中間目標値 (2016年度) | 目標値 (2022年度) | 達成状況 |
|---------------|------------------|------------------|-------------------|-----------------|------|
| 国際コンベンション開催件数 | 216件 (2010年) | 336件 (2014年) | 234件 | 250件 | A |
| 国内コンベンション誘致件数 | 138件 (2011年度) | 126件 (2014年度) | 148件 | 160件 | C |



出典：日本政府観光局「国際会議統計」



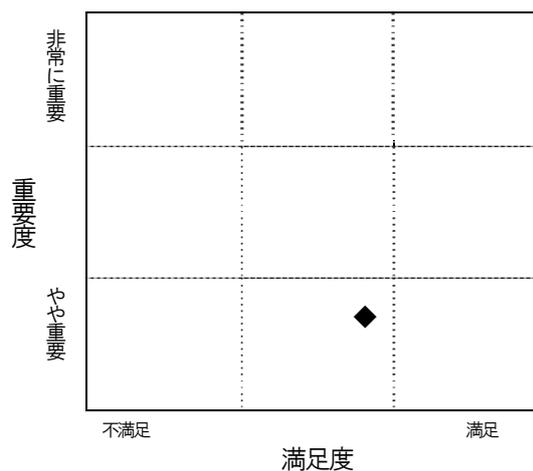
(公財) 福岡観光コンベンションビューロー調べ

《市民満足度調査（2015年度調査）》

国際会議や展示会・見本市などの誘致、
コンベンション機能の強化

| 満足度 | | 重要度 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 満足 | 23.9% | 重要 | 41.1% |
| 不満足 | 9.3% | 非重要 | 11.6% |
| どちらでもない | 63.3% | どちらでもない | 43.4% |

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



指標等の分析

【成果指標】

- 本市の年間国際会議開催件数は336件（H26）で、目標値を上回っている。
(件数は6年連続で国内第2位)
- 国内会議の誘致件数は126件（H26n）となり、前年度より減少した。

3 事業の進捗状況

主な事業の成果

●MICE 機能の強化

- ・H27.3からウォーターフロント地区における計画提案公募を実施し、事業者から19件の提案を受領。
- ・計画提案公募における提案事業者からの提案や対話等を踏まえ、第2期展示場等の具体的な施設計画やホテル・賑わい施設等の誘致に係る検討を実施。また、サンパレス用地を活用するとともに、ホールの機能更新についての方向性を決定した。
- ・「都心循環BRT（※1）」形成に向けた連節バスの試走の実施、及び福岡BRTシステム検討会議において、「BRT専用走行空間」、「バス路線の再編・効率化」を検討。
 ※1：バス高速輸送システム（Bus Rapid Transit）。福岡市における都心循環BRTとは「連節バスの導入、シンボリックなバス停整備、鉄道や路線バスとの乗継強化などにより、従来のバスよりも、速く、時間どおりに、たくさんの人を運ぶ、分かりやすく使いやすいシステム。」としている。
- ・博多港国際ターミナルにおける都市サインの設置。

●MICE 誘致の推進

- ・MICE主催者へのコンベンション開催助成金の交付を行うとともに、助成金制度の改正を行い、上限額の大幅な引き上げや一部前払い制度の導入など、主催者支援を強化。
- ・国際会議協会（ICCA）のデータベースを活用したリサーチ・マーケティングの実施。
- ・国際ミーティング・エキスポ（IME）や国際MICE見本市（IMEX）など、国内外の国際会議等の商談会・見本市に出展するとともに、世界約150の国・地域でPR番組の放送を行うなど、営業活動を強化。
- ・市とMICEの専門組織「Meeting Place Fukuoka」、施設管理者である（一財）福岡コンベンションセンターの連携強化策を検討するとともに、実務者レベルの会議体を設け、誘致ターゲットのリスト化、月次レベルの誘致状況等の情報共有を図り、戦略的な誘致活動を展開。
- ・学術や産業分野で影響力を持つ人物を福岡市MICEアンバサダーに委嘱し、キーパーソンとのネットワーク強化ならびに新規MICEの誘致を促進。
- ・国家戦略特区の規制緩和を活用し、公道を活用したイベント（ストリートパーティ）を実施し、その中でMICE参加者の懇親会を開催するなど、福岡でのMICE開催の魅力向上のためにユニークベニューの開発・充実を行った。
- ・Food EXPO Kyushu 開催に合わせ、MICE参加者と地元企業をつなぐビジネスコーディネートとして、出展者・バイヤーの交流会（参加者数175人）や、新たなビジネス機会やイノベーションを創出するために、地場企業・生産地見学ツアー（参加者数：国内外のバイヤー・セラー26社）を実施。
- ・MICE参加者の利便性向上を図るため、マリンメッセ福岡の全館にWi-Fiを導入したほか、MICE施設・交通・観光・飲食などを案内するスマートフォン・アプリを制作。
- ・イベントが集中する時期の宿泊施設不足に対応するため、市民の自宅を宿泊施設として活用する取組みを試験的に実施。

4 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●MICE 機能の強化

- ・ウォーターフロント地区内での「オール・イン・ワン（※2）」の早期実現にあたり、ホテル・賑わい施設等の誘致に向けて、交通アクセス強化等も含めた魅力的で実現性の高い計画づくりが必要。
 ※2：展示場、会議室、宿泊、宴会場などのMICE関連施設や飲食店、休憩所等が徒歩圏内に一体的・機能的に配置されること。

- ・都心部を目的として直接流入するバス・自動車は多く、依然として道路交通混雑が見受けられる。さらに、天神ビッグバンやウォーターフロント再整備など都市の活力を牽引する都心部の機能強化と更なる魅力づくりの推進を契機として、陸・海の玄関口であり特色の異なる都心3拠点の機能強化とともに、拠点間の快適・円滑な移動の確保やネットワークの強化を図る必要がある。
- ・各種施策の実施にあたっては、適宜市民へ情報発信（広報・PR）していくことが必要。

●MICE 誘致の推進

- ・ICCA のデータベース活用やMICE開催のキーパーソンとのネットワーク強化による新規案件の掘り起こしが必要。
- ・「Meeting Place Fukuoka」と（一財）福岡コンベンションセンターの連携を更に強化し、ワンストップ体制で誘致・支援を進めていくことが必要。
- ・新たなユニークベニューの開発やMICEを通じたビジネスコーディネートの実施、近隣自治体や民間と連携した受入環境整備などの取り組みが必要。

5 今後の取組みの方向性

●MICE 機能の強化

- ・H28n 以降の事業者公募に向けて、第2期展示場等のMICE施設について、事業手法の検討を行うとともに、ホテルや賑わい施設等の誘致に向けた条件の整理や公募方法の検討等を行う。
- ・過度に自動車に依存しない、ひとを中心とした、歩いて出かけたくなるまちの実現に向け、都心循環BRTの形成、バス路線の再編・効率化、フリッジパーキングの確保等の施策を推進し、自動車交通の削減・抑制や公共交通への利用転換の誘導を図る。

●MICE 誘致の推進

- ・海外への展示会の出展や、国内外におけるMICEセミナーの開催により、新規案件の発掘を行うとともに、福岡市MICEアンバサダーとの共同営業や関係団体と連携した商談会の開催及びキーパーソンの招聘等により、戦略的な誘致活動を展開する。
- ・「Meeting Place Fukuoka」と（一財）福岡コンベンションセンターの連携を強化し、誘致・受入体制の充実を図る。
- ・福岡市独自のユニークベニューの開発、MICEを通じたビジネスマッチングを行うこと等により、福岡でのMICE開催の魅力を高め、国内外へ発信することにより再来訪や新たな誘致を獲得する。
- ・H28.6に開催されるライオンズクラブ国際大会に向け、開催支援や受入環境の整備等を実施する。

事業一覧シート

| | |
|-------|----------------------------|
| 分野別目標 | 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている |
| 施策 | 5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成 |

| | | | | | | |
|---------------------|--|-----------------------------|--|---------|---------|--|
| 国内を代表するコンベンション拠点の形成 | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部MICE施設整備担当 | 27年度事業費 | 109,757 | 千円 | |
| | | | 28年度事業費 | 155,354 | 千円 | |
| 対象 | 本市コンベンションゾーンにおけるコンベンション施設 | 目的 | コンベンション施設が集積するウォーターフロントのコンベンションゾーンにおいて、新たな展示場を整備するとともに、ホテルの誘致(宿泊機能やバンケット機能)、飲食店などの賑わい創出により、コンベンション機能を強化する。 | | | |
| 実施内容 | H27.3から実施した計画提案公募における提案事業者からの提案や対話等を踏まえながら、第2期展示場・ホール等の具体的な施設計画やホテル・賑わい施設の誘致に係る検討を行った。 | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | — | — | — | — | b | |
| 成果の指標 | — | — | — | — | | |
| 補足 | 計画提案公募の内容等も踏まえ、今後の事業化に向けたWF地区全体の将来像や土地利用計画等の基本方針を取りまとめた「WF地区再整備構想」を、H28.3に策定している。 | | | | | |

| | | | | | | |
|------------|---|--------------------------|---|--------|---------|--|
| MICE誘致推進事業 | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課 | 27年度事業費 | 59,258 | 千円 | |
| | | | 28年度事業費 | 56,568 | 千円 | |
| 対象 | MICEの主催者・参加者 | 目的 | MICE主催者が、福岡市の魅力を知り、福岡を開催地として選択する状態。また、福岡で開催されたMICEの主催者・参加者が福岡の魅力に触れ、個人旅行で再来福したり、広く福岡の魅力を発信する状態。 | | | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 海外の国際会議等の展示会・見本市への出席。 国際会議協会(ICC)のデータベースを活用した戦略的なマーケティング活動。 市と(公財)福岡観光コンベンションビューロー、(一財)福岡コンベンションセンターの三者で、協働の誘致活動を実施。 実務者レベルの会議体を設け、誘致ターゲットのリスト化や、月次レベルの誘致状況等について情報共有を実施。 MICE主催者への各種支援(コンベンション開催助成、歓迎バナーの掲出、コンベンションサポートなど)。 | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | — | — | — | — | b | |
| 成果の指標 | 国際コンベンション開催件数・国内コンベンション誘致件数 | 416 | 集計中 | — | | |
| 補足 | H27n実績については集計中のため、成果指標に基づく評価は不能。MICE誘致件数増加につなげるため、上記の取り組みを通して、MICE誘致推進の強化を図った。 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------------|---|--|--|--------|---------|--|
| MICEによる福岡版クールジャパンの推進 | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課 経済観光文化局国際経済・コンテンツ部コンテンツ振興課 | 27年度事業費 | 46,795 | 千円 | |
| | | | 28年度事業費 | 0 | 千円 | |
| 対象 | MICEの主催者・参加者 市内ファッション関連企業 | 目的 | MICE参加者の行動把握を行うとともに、MICE参加者等の利便性向上と福岡の魅力発信を行うスマートフォンアプリを制作して、MICEの誘致促進を図る。 ファッションウィーク福岡のPR効果・ブランド力の向上及びBtoB機会の拡充を行い、地場企業の販路拡大や集客による消費増大を図る。 | | | |
| 実施内容 | 【地方創生関連交付金事業】地方創生先行型(上乗せ交付分) <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の位置情報のビッグデータを活用して、MICE参加者の行動を分析し、市内各地への回遊などの課題対応に向けた実証的な分析を行った。 MICE参加者等の利便性向上や市内回遊性向上のため、スマートフォンアプリを制作した。 F.W.FのPR効果やブランド力を高めるため、またBtoB機会の拡充のため、8か国・地域より31人の海外デザイナー、バイヤー、メディア等を招聘。 福岡市のファッション産業関係者と海外招聘者とのネットワーキングレセプションを実施。福岡ブランドと海外デザイナーとの今後の連携可能性等を含めた意見交換を行った。 福岡アジアコレクションでは、3か国の海外デザイナーによる「FACo global designer's stage」を実施。 海外バイヤーと福岡ブランドとの商談会では37件の商談が行われ、2件が成約。またその他に25件が商談継続中(H28.3末時点)。 FUKUOKA STREET PARTY(国家戦略特区認定事業)において、福岡ブランドの販売ブースを出展。また、市内商業施設10施設による合同ファッションショー及び市内の服飾系学校5校による合同ファッションショーを実施した。 | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 指標 | ファッションウィーク福岡参加者数 | 70000 | 524,202 | 749% | a | |
| | ファッションウィーク福岡参加企業・店舗数 | 300 | 302 | 101% | | |
| | MICE主催者・参加者の利便性向上のための情報提供ツールの開発 | 1 | 1 | — | | |
| | アフターコンベンション支援の実施 | 3 | 3 | — | | |
| 補足 | 委託事業により、ビッグデータ分析及びアプリ制作を実施した。 | | | | | |

施策評価シート

| | | | |
|--------|--|-----|---------|
| 目標5 | 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている | | |
| 施策5-5 | 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興 | | |
| 施策の課題 | <p>福岡市は、福岡国際マラソンをはじめとした国際スポーツ大会や大相撲九州場所が毎年開催されるとともに、野球、サッカー、バスケットボールなどのプロスポーツチームも有しています。また、福岡市はユニバーシアード競技大会、世界水泳選手権大会など、大規模な国際スポーツ大会を開催した実績があります。</p> <p>人々に夢と感動を与え、まちに対する誇りと活力をもたらすスポーツの魅力を、都市の魅力としてさらに活用し、推進していく必要があります。</p> | | |
| 施策の方向性 | <p>国際スポーツ大会や全国レベルの大会の開催地、合宿地としての誘致・支援を行うとともに、地元プロスポーツの振興を図ることなどにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会を提供し、市民スポーツの振興を推進します。</p> | | |
| 施策主管局 | 市民局 | 関連局 | 経済観光文化局 |

《施策事業の体系》 ★：新規事業 ◆：区事業 / 太字：重点事業 その他：主要事業

(施策5-5) 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

| | |
|-----------------------------------|-----------|
| ●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援 | |
| └ 国際スポーツ大会等の誘致・開催 | 【市民局】 |
| └ 【大規模スポーツ大会誘致・開催支援、スポーツコミッション事業】 | |
| └ 拠点体育館整備<再掲1-5> | 【市民局】 |
| ●プロスポーツの振興 | |
| └ アビスパ福岡支援 | 【市民局、区役所】 |
| └ 大相撲九州場所支援事業 | 【市民局】 |

1 施策の評価（施策の進捗状況）

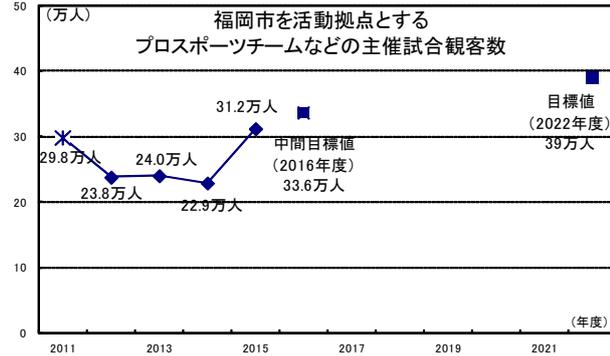
○：概ね順調

- ・福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数は、中間目標値に向けたペースを下回っているが、アビスパ福岡の好成績などにより対前年比で約1.5倍となり、初めて初期値を超えた。スポーツ観戦の機会への評価は、目標の達成に向け順調に推移している。
- ・H27.8に中国北京で行われた世界陸上選手権大会の事前合宿地や、ラグビーワールドカップ2019の試合開催地、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地、2021年の世界水泳選手権の開催都市となるなど、事業は順調に進んでいる。

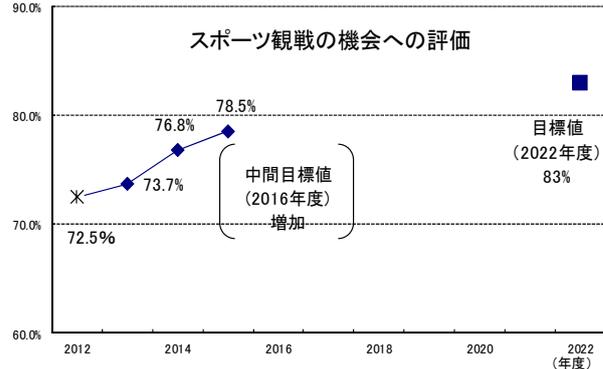
2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

| | 初期値 | 現状値 | 中間目標値 (2016年度) | 目標値 (2022年度) | 達成状況 |
|---|--------------------|--------------------|-------------------|-----------------|------|
| 福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数 (福岡ソフトバンクホークスを除く) | 29万8千人 (2011年度) | 31万2千人 (2015年度) | 33万6千人 | 39万人 | B |
| スポーツ観戦の機会への評価 (福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思ふ市民の割合) | 72.5% (2012年度) | 78.5% (2015年度) | 増加 | 83% | A |



出典：市民局スポーツ事業課調べ



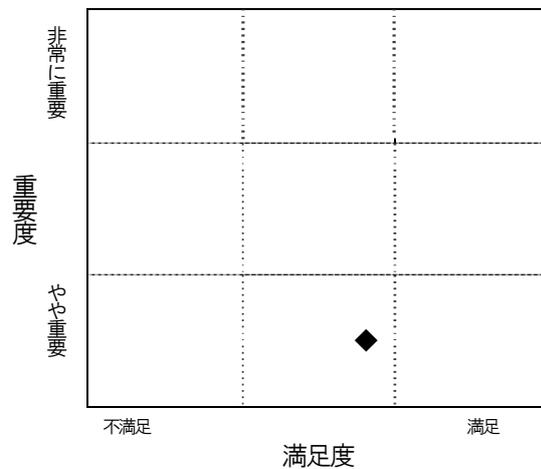
出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

《市民満足度調査（2015年度調査）》

国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

| 満足度 | | 重要度 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 満足 | 24.9% | 重要 | 38.2% |
| 不満足 | 10.9% | 非重要 | 13.4% |
| どちらでもない | 60.8% | どちらでもない | 44.6% |

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



指標等の分析

【成果指標】

- ・主催試合観客数の増加の要因は、アビスパ福岡が好成績でJ1昇格を果たしたことや、大相撲九州場所の人気回復、ラグビートップリーグの開催試合日数が増えたことなどであるが、一方でライジング福岡及び福岡J・アンクラスについては、成績低迷により、観客数が減少した。
- ・スポーツ観戦の機会への評価は、毎年順調に伸びている。

3 事業の進捗状況

主な事業の成果

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・H27.8に中国北京で行われた世界陸上選手権大会の事前合宿地として、イギリス陸上競技連盟を受け入れた(H27.8)。
- ・H31の日本陸上選手権大会の開催が決定した(H27.12)。
- ・H33の世界水泳選手権の開催都市として決定した(H28.1)。

- ・H32の東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地として、ノルウェーオリンピック委員会の視察を受け入れた（H28.3視察）。

●プロスポーツの振興

- ・アビスパ福岡と協力して、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等を実施。また、アビスパ福岡の支援のため、市民を対象とした試合観戦招待やホームゲーム開催時におけるスポーツ大会等の広告看板を掲出。
- ・大相撲九州場所の支援として、街路灯バナーの掲出、CM映像放映等のPRを実施。
- ・ラグビー日本代表戦のPRや観戦招待、ラグビーワールドカップのPRを実施。

4 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・新規国際スポーツ大会等の開催や事前合宿地についての情報収集が不十分。
- ・市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、市民がトップレベルの競技に触れる機会の提供が必要。
- ・九電記念体育館の土地の使用期限がH31n末までであるため、後継施設である総合体育館の整備を計画的に進める必要がある。
- ・体育館や屋外の競技場などの施設について、老朽化や、大規模な国際スポーツ大会の開催基準に満たないものがあることが課題。

●プロスポーツの振興

- ・福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡に加え、福岡J・アンクラス、ライジング福岡など多彩なプロスポーツチーム等が活動しているほか、大相撲九州場所の開催など、福岡市のスポーツ観戦環境は恵まれているが、歴史が浅く知名度が低いチーム等はその活動の周知が不十分。
（ホークスを除くプロスポーツ試合観客数 H27n：311,709人）
- ・アビスパ福岡については、昨年、好成績でJ1昇格を果たし、観客数が大幅に増加。経営状況については、改善されつつあるが、J1に定着するまでには不安定な状態。

5 今後の取組みの方向性

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・ラグビーワールドカップ2019については、福岡県や経済界などと連携し、大会開催に向けた準備や気運醸成を実施。キャンプ地については、5月に示される公式キャンプ地選定プロセスにのっとり、強豪国のキャンプ招致に向けて取り組む。
- ・2021年世界水泳選手権については、大会開催に向けた準備や気運醸成を実施。
- ・新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会の開催について、各種競技団体やパートナー都市協定を締結したJOCと連携して招致を検討。
- ・市民が身近に高いレベルのスポーツに触れ、交流できる機会を創出するため、大規模スポーツ大会の開催、招致を推進。
- ・新たな拠点体育館の整備について、九電記念体育館の閉館に間に合うよう着実に整備を推進。

●プロスポーツの振興

- ・各プロスポーツへの関心向上と観客数増加のため、継続した広報活動や、市民とのスポーツ交流活動を支援。
- ・アビスパ福岡については、経営状況を把握しながら、継続して支援。

事業一覧シート

| | |
|-------|----------------------------|
| 分野別目標 | 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている |
| 施策 | 5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興 |

| | | | | | |
|---------------------------------------|--|--------|--|---------|-----------|
| 国際スポーツ大会等の誘致・開催①（スポーツコミッション事業） | | 所管課 | 市民局スポーツ推進部スポーツ事業課 | 27年度事業費 | 15,249 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 6,353 千円 |
| 対象 | 国内外のスポーツ関係団体等 市民 | 目的 | 国際スポーツ大会等開催地、事前合宿地の誘致・支援を行うことにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増えるなど、市民スポーツの振興が推進されるとともに、本市の知名度向上や参加者・観光客増加による経済波及効果ももたらされる。 | | |
| 実施内容 | 1 大規模大会の招致活動 ○ 日本陸上選手権・・・2019年大会招致 ○ 世界水泳選手権・・・2021年大会招致 2 イギリス陸連による世界陸上北京大会の事前合宿受入 ○ H27.8.3～H27.8.26 ○ 競技者・スタッフ等 100名 ○ 博多の森陸上競技場ほか 3 東京オリパラ関係 ○ ノルウェー事前合宿視察受入 H28.3.16～H28.3.18 ノルウェーオリンピック委員会4名 | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | — | — | — | — | a |
| 成果の指標 | スポーツ観戦の機会への評価（％） | 73.7 | 78.5 | 107% | |
| 補足 | — | | | | |

| | | | | | |
|---|---|--------|--|---------|-----------|
| 国際スポーツ大会等の誘致・開催②（ラグビーワールドカップ2019開催準備等及びキャンプ招致） | | 所管課 | 市民局スポーツ推進部課長（国際スポーツ大会担当） | 27年度事業費 | 51,718 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 96,971 千円 |
| 対象 | ラグビーワールドカップ2019 | 目的 | 市民スポーツの振興や都市ブランド力の強化、地域経済の活性化のため、ラグビーワールドカップ2019の開催都市の一つとして、大会の成功に向け、開催準備や気運醸成に努めるとともに、強豪国のキャンプ招致を目指す。 | | |
| 実施内容 | ○「ラグビーワールドカップ2019」の開催都市の一つとして、公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会や、福岡県、地元経済界、ラグビー関係者等と共同で、大会の開催準備や気運醸成に取り組んだ。 ○キャンプ地については、情報収集やパイプ作りに努めるとともに、様々な機会を通じて福岡市のPRを行った。 | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | — | — | — | — | a |
| 成果の指標 | — | — | — | — | |
| 補足 | — | | | | |

| | | | | | |
|-----------------|--|--------|--|---------|-----------|
| アビスパ福岡支援 | | 所管課 | 市民局スポーツ推進部スポーツ事業課 | 27年度事業費 | 85,255 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 85,916 千円 |
| 対象 | アビスパ福岡 市民 | 目的 | ・市民が、試合観戦やアビスパ福岡のホームタウン活動を通して、一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増える。 ・多くの市民や企業、団体が、アビスパ福岡を誇りに思い、積極的に支援することで、アビスパ福岡の経営基盤が安定し、自立が図られる。 | | |
| 実施内容 | ①観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） ②少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） ③親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） ④心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） ⑤アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） ⑥スポーツ大会等広告看板掲出（ホームゲーム時に掲出） ⑦ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチおよびブラインドサッカー選手による体験教室） | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | — | — | — | — | a |
| 成果の指標 | プロスポーツチームなどの主催試合観客数（千人） | 240 | 312 | 130% | |
| 補足 | — | | | | |

施策評価シート

| | | | |
|--------|---|-----|-------|
| 目標5 | 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている | | |
| 施策5-6 | 国内外への戦略的なプロモーションの推進 | | |
| 施策の課題 | 博多港は2010年(平成22年)には外航クルーズ客船寄港回数が日本一となるなど、国内のクルーズ拠点港として存在感を高めており、また、中国や韓国などからの来街者が大幅に増大していますが、今後、観光産業における都市間競争は、さらに激しさを増すと見られており、成長著しいアジア地域を中心とした諸外国からいかに観光客を取り込んでいくかが重要な課題となっています。 | | |
| 施策の方向性 | 都市圏や九州の各都市、さらには釜山広域市と連携し、国内やアジアをはじめとする海外の有望市場に対し、メディア、インターネットなどを活用した効果的なプロモーションにより、クルーズ客を含め、国内外からの誘客に積極的に取り組み、多くの人をひきつけます。 | | |
| 施策主管局 | 経済観光文化局 | 関連局 | 港湾空港局 |

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-6)国内外への戦略的なプロモーションの推進

- シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進
 - **国内外観光プロモーション事業(欧州・アジア等)** 【経済観光文化局】
 - フィルムコミッション事業<再掲7-3> 【経済観光文化局】
- クルーズ客拡大への取組み
 - **クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化** 【経済観光文化局、港湾空港局】
 - **クルーズ客船に対するインセンティブ(港湾使用料の減免)** 【経済観光文化局、港湾空港局】
 - 全国クルーズ活性化会議 【経済観光文化局】

1 施策の評価(施策の進捗状況)

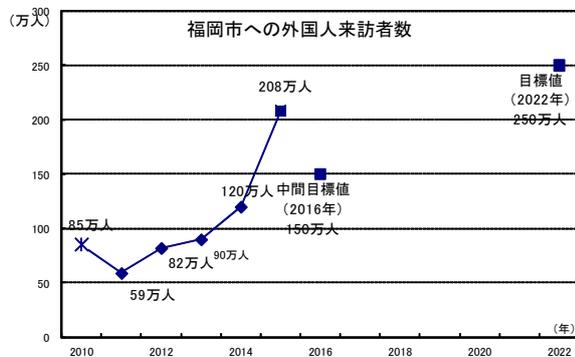
◎：順調

- ・福岡市への外国人来訪者数、外航クルーズ客船の寄港回数とともに順調に伸び、中間目標値を上回っている。
- ・国内外でのプロモーション活動やフィルムコミッション、クルーズ客船誘致のためのクルーズツアー商談会・見学会・セミナー・出前講座など、事業は概ね順調に進んでいる。

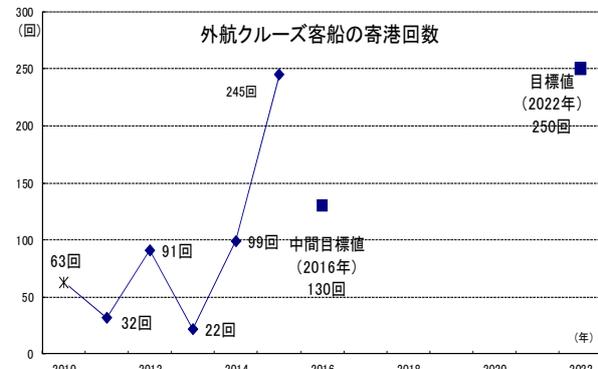
2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

| | 初期値 | 現状値 | 中間目標値 (2016年度) | 目標値 (2022年度) | 達成状況 |
|-------------------|-----------------|------------------|-------------------|-----------------|------|
| 福岡市への外国人 来訪者数 | 85万人 (2010年) | 208万人 (2015年) | 150万人 | 250万人 | A |
| 外航クルーズ客船 の寄港回数 | 63回 (2010年) | 245回 (2015年) | 130回 | 250回 | A |



出典：法務省「出入国管理統計」

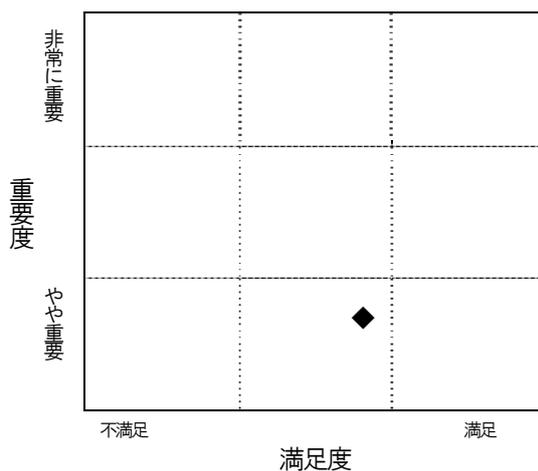


出典：福岡市港湾空港局調べ

《市民満足度調査（2015年度調査）》 観光プロモーション活動（宣伝、広報活動）の 推進

| 満足度 | | 重要度 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 満足 | 24.4% | 重要 | 41.6% |
| 不満足 | 12.0% | 非重要 | 12.5% |
| どちらでもない | 60.1% | どちらでもない | 41.6% |

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



指標等の分析

【成果指標】

- ・円安やビザ緩和などを背景として、ほとんどの国・地域からの入国が増加しており、最も入国者が多い韓国を筆頭に、台湾、香港、中国、タイの増加数が大きいことが外国人来訪者数の増加につながっていると考えられる。
- ・H27は外国クルーズ客船が245回寄港し、あわせて船の大型化も伴い、クルーズ客船がほとんどを占める不定期航路の乗降人員数は、過去最高を記録していたH26からさらに大幅に増加した。
(約114万9千人)
- ・H28は、すでに350回程度の岸壁予約を受けているうえ、複数のクルーズ船の初入港が予定されているなど、アジアクルーズ市場の拡大による博多港へのニーズは、今後さらに高まっていく見込みである。

3 事業の進捗状況

主な事業の成果

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・国内では3大都市圏、海外では直行便の就航するアジアなどの有望市場を主なターゲットとして、国際観光展等への出展や観光説明会の開催など、本市の事業に加え観光関係協議会等において広域連携によるプロモーション活動を実施（観光展・説明会等14件）。
- ・福岡の認知度向上や旅行商品の造成促進を図るため、海外メディア等による情報発信（12件）や旅行会社等の招請（9件）を実施。
- ・福岡フィルムコミッションについて、海外作品11件の撮影支援を行った。また、アジアフォーカス・福岡国際映画祭のゲストに対してロケ候補地を案内しプロモーションを行ったほか、釜山などの国際映画祭に合わせて開催される海外の見本市等において撮影誘致活動を実施。

●クルーズ客拡大への取り組み

- ・商店街など新たな資源を活用した寄港地ツアーの造成や受入サポートの実施など、旅行社及び商業施設と連携した取り組みが好評。
- ・クルーズツアー商談会（地元飲食店・商業施設・観光施設等とクルーズ取扱い旅行社のマッチングを図る取り組み）を開催（1回、参加人数約100人）。
- ・国内外の船社・代理店訪問や海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動や、見学会・セミナー、出前講座等を通じた博多港発着クルーズ振興を実施。H27.4には、2,000人規模の外国船による博多港発着クルーズが実施され、H28.7からH28.9には、博多港発着クルーズが計10回実施される予定。
- ・クルーズ客の円滑な受入や利便性・快適性の向上とともに、アウトバウンド（博多港発着クルーズ）を含めたクルーズ振興を図るため、中央ふ頭において、クルーズセンターを整備（H27.5供用開始）。
- ・舞鶴中学校跡地における駐車場（一般車241台、バス15台）開設〔国による整備、民間運営〕（H27.8）

4 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・国籍別内訳が公表されていない船舶観光上陸許可によるクルーズ船での入国を除き、外国人観光客の6割以上を韓国、中国で占めており、特定の地域に集中しているため、観光客の動向が国際情勢による影響を受けやすい。
- ・観光地としての福岡市の知名度を向上させるため、伝統・文化、食、コンテンツ、ファッション、ショッピングなどの素材の中からターゲットの地域の嗜好にあわせてどんな内容・手法でプロモーションを行うかについて、継続的な市場分析・研究が必要。

●クルーズ客拡大への取り組み

- ・クルーズ客船寄港回数の急増船の大型化による港湾施設の不足。
（クルーズ船寄港回数 H25：38回、H26：115回、H27：259回、H28：350回程度予定）
- ・船の大型化（一度に来福するクルーズ客の増加）による、観光バス、市内受入施設の不足。
- ・クルーズ客ツアーが一部の商業施設や観光地に集中してしまっているため、市内で交通渋滞が発生。

5 今後の取り組みの方向性

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・日本政府観光局等、関係団体からの情報収集に加え、福岡観光コンベンションビューローや九州の各自治体等で構成する各種協議会とも連携して、ターゲットとなる市場のニーズを捉え、効果的なプロモーションを計画的に実施。

- ・福岡フィルムコミッションにおいては、アジアフォーカス・福岡国際映画祭を活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。

●クルーズ客拡大への取組み

- ・商店街など新たな資源を活用した寄港地ツアーの造成や受入サポートの実施など、旅行社及び商業施設と連携した取組みが好評を得ており、連携強化を図りながら取組みを継続するとともに、入国審査の迅速化に関する国との協議も継続。
- ・拡大を続けるアジアクルーズへの需要に対応できるよう、岸壁の延伸などの港周辺環境の整備・強化を図るとともに、クルーズ観光客の受入環境の充実に向け、旅行社及び観光施設等との連携強化を図る。
- ・より高級なラグジュアリークルーズやアジア以外の地域からのクルーズ、博多港発着クルーズなど、多様なクルーズの誘致推進。
- ・本市および関係行政機関、旅行業関係団体、観光・商業施設関係者等で組織した「博多港クルーズ船受入関係者協議会」を活用しながら、クルーズ客用貸切バスによる交通渋滞緩和を目指す。

事業一覧シート

| | |
|-------|----------------------------|
| 分野別目標 | 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている |
| 施策 | 5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進 |

| | | | | | | |
|--------------------|--|--------|-----------------------------|---------|---------|----|
| 観光プロモーション事業 | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課 | 27年度事業費 | 50,225 | 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 35,904 | 千円 |
| 対象 | 国内外の旅行者 | 目的 | 福岡に興味・関心を持ち、福岡を訪れる | | | |
| 実施内容 | <p>観光関係協議会における広域連携による取り組みに加え、主として、国内では3大都市圏、海外では直行便の就航するアジアの主要都市などに対し、市場の嗜好性に合わせたプロモーションを実施した。</p> <p>○観光関係協議会による活動 ○タイ・インドネシアにおけるトッププロモーション ○現地説明会開催や観光展出展等によるPR ○メディア等を活用した情報発信 ○釜山・福岡アジアゲートウェイ（釜山広域市との共同PR）</p> | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | 情報発信・招請事業の件数 | 15 | 21 | 140% | a | |
| 成果の指標 | 外国人入国者数 | — | 2,078,026 | — | | |
| 補足 | — | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---|--------|-----------------------------|---------|---------|----|
| 戦略的情報発信事業<旧：国内外観光プロモーション事業> | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課 | 27年度事業費 | 6,000 | 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 6,576 | 千円 |
| 対象 | 国内外の旅行者 | 目的 | 福岡に興味・関心を持ち、福岡を訪れる | | | |
| 実施内容 | <p>実行委員会及びコンベンションビューローへ負担金を拠出し広報物を制作・配布</p> <p>・福岡観光ポスターの印刷・配布 ・福岡観光ガイドブックの作成 （作成部数：日40.5万・英7万・韓5万・中（繁体字3万・簡体字3万）</p> | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | 観光ガイドブックの発行部数 | — | 585,000 | — | a | |
| 成果の指標 | 外国人入国者数 | — | 2,078,026 | — | | |
| 補足 | — | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------|--|--------|-----------------------------|---------|---------|----|
| 欧州プロモーション事業 | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課 | 27年度事業費 | 3,968 | 千円 |
| | | | | 28年度事業費 | 5,140 | 千円 |
| 対象 | 欧州市場 | 目的 | 福岡の認知度が高まり、福岡に頻繁に訪れてもらう | | | |
| 実施内容 | <p>・フランスについて、福岡市の認知度向上及び誘客促進を図ることを目的に、 （1）ケーブルテレビ番組の制作及び放映 （2）フランス人ブロガーの招請 （3）フランス人シェフの招請 （4）パリでの福岡産日本酒試飲会及び来場者へ本市観光情報の発信を実施した。</p> <p>・福岡市の認知度向上を図るため、フランス及びイギリスで発行される雑誌を活用した情報発信を実施した。</p> | | | | | |
| | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 | |
| 活動の指標 | プロモーション件数 | 3 | 6 | 200% | a | |
| 成果の指標 | 外国人入国者数 | — | 2,078,026 | — | | |
| 補足 | — | | | | | |

| クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化①外国クルーズ客船受入事業（A） | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課 | 27年度事業費 | 17,254 | 千円 |
|---|---|-------------------|----------------------------------|---------|--------|---------|
| | | | | 28年度事業費 | 16,923 | 千円 |
| 対象 | クルーズ客 | 目的 | スムーズに観光やショッピングを楽しみ、クルーズ客の満足度が上がる | | | |
| 実施内容 | (1) 着岸場所（岸壁・博多港国際ターミナル）での対応 ①入国管理局、警察等との連絡調整 ②岸壁での歓迎・見送り演出の実施 ③クルーズセンターでの語学ボランティアによる観光案内の実施等 (2) 受入体制等の充実 ①観光バスの天神地区乗り入れの受入協力 ②商業施設と連携した受入体制（外国語対応等）の充実強化等 ③クルーズ商談会の実施 ④旅行会社・商業施設と連携した寄港地観光ツアーの実施 | | | | | |
| | | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | | 受入体制の整備 | — | — | — | a |
| 成果の指標 | | 外航クルーズ客船の寄港回数（暦年） | 110 | 245 | 223% | |
| 補足 | | — | | | | |

| クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化②外国クルーズ客船受入事業（B） | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課 | 27年度事業費 | 5,241 | 千円 |
|---|--|-------------------|----------------------------------|---------|-------|---------|
| | | | | 28年度事業費 | 3,968 | 千円 |
| 対象 | クルーズ客 | 目的 | スムーズに観光やショッピングを楽しみ、クルーズ客の満足度が上がる | | | |
| 実施内容 | 【外国クルーズ客船受入事業にかかる広報媒体部分】 ・記念品うちわ増刷18万部 ・ショッピングガイド制作6万部 | | | | | |
| | | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | | パンフレットの作成 | — | — | — | a |
| 成果の指標 | | 外航クルーズ客船の寄港回数（暦年） | 110 | 245 | 223% | |
| 補足 | | — | | | | |

| クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化③（クルーズ客船誘致事業）（調査振興費） | | 所管課 | 経済観光文化局観光コンベンション部クルーズ課 | 27年度事業費 | 42,972 | 千円 |
|---|---|------------------|------------------------|---------|--------|---------|
| | | | | 28年度事業費 | 13,713 | 千円 |
| 対象 | 船社・旅行代理店等 | 目的 | クルーズ船の誘致 | | | |
| 実施内容 | ・クルーズ船誘致事業 海外船社、国内クルーズ関係企業等に訪問し、寄港誘致 海外コンベンションに多数参加し、クルーズ港としての博多港をPR ・博多港発着クルーズ振興 市民クルーズ、市民船内見学会等を実施 ・クルーズ船受入事業 中央ふ頭内でのアクセス改善及び箱崎ふ頭での大型船受入対応整備等 | | | | | |
| | | 指標内容 | 27年度目標 | 27年度実績 | 達成率 | 事業の進捗状況 |
| 活動の指標 | | 船社・旅行代理店等訪問数 | 50 | 32 | 64% | a |
| 成果の指標 | | 外航クルーズ客船寄港回数（暦年） | 110 | 245 | 223% | |
| 補足 | | — | | | | |